

特別支援学校（主に高等部）における消費者教育の在り方に関する意見交換会  
論点整理表

項目 障がいの種類	(1) 障がいの特性	(2) 教育上、配慮すべきこと	(3) 今後の消費者教育の在り方に関する意見・要望 (今後の施策に向けた課題)
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>人によって障がいの症状・程度は様々である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の症状や理解度に応じた内容を、計画を立てて積み上げていく必要がある。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材は加工（カスタマイズ）しやすい電子教材の形がよい。(教材)</li> <li>教員が先を見通し計画を立てられるよう、それぞれの生徒の状態に合わせて教えるべきポイントを考えられる表があるとよい。(カリキュラム、手引き)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費生活を含めた生活経験は障がいの種別、症状の程度により様々である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科や特別活動などの各教科等を合わせた指導の時間を活用して、買物の機会を設けるなど消費生活に直結した体験的な学習を行い、経験を広げることが必要である。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発展的・応用的な内容を学習する前に、金銭管理や自分で選んで決めて買物をするといった基本的な技能（スキル）を身に付けられるように支援する。(生活経験・技能)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的なことの理解が難しく、物事をイメージ、関連付けが困難な場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習する内容を厳選し、座学のみでなく具体的な事例を交えてロールプレイング（販売勧誘の意図や）等体験的な学習を行うとよい。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロールプレイング等による生活経験を補う教材・学習機会の提供が必要である。既存の教材を目的、内容別に整理したデータベースがあるとよい。(教材)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験の少なさから、物事の課題が分かっていない、つかめていない状況でも分かっているとってしまう場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜその事柄についての学習が必要なのかを具体的な事例を通して理解させるようにする。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分にどのような配慮が必要なのか分かっていないと社会に出てから困るため、学校教育の中で、社会生活ではどのような配慮が必要か学習できるとよい。(自立に向けて)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>人を信じやすい傾向があり、消費者トラブルに巻き込まれやすい。</li> <li>意図せず、周囲に被害を広げてしまう危険性もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談する練習の機会を作るとともに、生徒が教員に話をしやすい関係や環境を作り、定期的な面談を行うなど、生徒一人一人とコミュニケーションをとる時間を設けることが重要である。(自立に向けて)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校で消費者教育を行うだけでは十分でなく、日々の経験の中で、教員、生徒、保護者が一緒になって学習していくことが必要である。身近な消費生活センターと連携し消費者トラブルの具体的な例や相談先を保護者にも伝える。(見守り支援)</li> </ul>
視覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>触ることやことば（音声）で情報を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的なイメージを共有できずことばで物事を理解するため、ことばを選んで伝える必要がある。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器の音声読み上げ機能に対応していないと、読み方や順序などが意図しないものになってしまうため、読み上げに対応した教材が必要である。(教材)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>点字の使用は障がいの症状、程度による。(先天的な視覚障がいの場合と、後天的な視覚障がいの場合では、ことばから想像できる力、物事の全体を捉える力が異なる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を作成する際は、全体の分量が見えるように項目番号を親番号と子の番号を合わせて記載し見やすくする等の配慮が必要である。(教材)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を作成する場合は、選択肢の数や項目数を示すようにする。(教材)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力で移動することが難しい生徒も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>買物の体験学習などをする場合は、付き添いで補助する必要がある。</li> <li>ICT 機器やインターネットを活用した学習ができるとよい。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>依頼があるまで支援しないなど、日常生活の主体が生徒であることを、本人にも保護者にも意識付けるなど、他教科や保護者との連携が必要である。</li> </ul>
聴覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲からは理解をしているように見えても実際は理解できていない場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話が聞き取れない場合や理解できない場合に、再度話してもらうよう相手に伝える練習が必要である。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>買物や契約などの消費生活に関わる場面での、実践的な練習が必要である。(授業等)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の聞き取り（聞こえ）の状態を理解できていない場合や、十分に聞き取れていないことに気付いていない場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場実習などでメモをとり、生徒自身に自分がどれくらい聞こえているかを認識させることは、社会に出たときの困った状況を実感させるために有効である。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識だけでなく、社会に出るとどのような場面で困った状況に陥るか具体例を伝えておく必要がある。(授業等)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取り（聞こえ）で得られる情報が不足するため、語彙が少ない場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口元を見せて目を合わせながら、身振り手振りをつけて、簡潔に話す。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>字幕付き DVD 教材があると、様々なトラブル事例を分かりやすく知ることができる。(教材)</li> <li>トラブルが生じたときに電話以外の具体的な相談方法、解決方法を周知する必要がある。(消費生活相談)</li> </ul>

※「共通」の項目を設けて整理をしているが、種別に記載している内容が他の障がいの種類についても当てはまる場合もある。

特別支援学校（主に高等部）における消費者教育の在り方に関する意見交換会  
論点整理表

項目 障がいの種類	(1) 障がいの特性	(2) 教育上、配慮すべきこと	(3) 今後の消費者教育の在り方に関する意見・要望 (今後の施策に向けた課題)
知的・発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばを字義どおりに受け取る傾向がある。</li> <li>場の空気が読めず、他者の意図を理解することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡潔・具体的な指示をし、否定形ではなく肯定形で伝える。(授業等)</li> <li>一般的な感じ方や常識を指導し、「なぜそうなのか」が分かるように伝える。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な場面を扱った教材・実践例の収集・提供が必要である。(教材等)</li> <li>生徒に教えたことについて、達成感や学ぶ意欲が得られるよう段階を分けたチェックリストがあると生徒自身がチェックする中で自己認識ができる。(教材)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心の偏りやこだわりがあり、自分のルーティンが崩れると不安定になりやすい。</li> <li>物事の優先順位がつけられず、目の前のことに集中してしまう傾向があるため、好きなことだけをしているように見えてしまう場合がある。</li> <li>2つ以上のことを同時に行うのが苦手な生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモやスケジュールを活用し順番を示し、2つ以上のことを同時に行わない環境を作り、見通しが持てるように説明する。(授業等)</li> <li>欲しい情報を収集する力、情報の良し悪しを判断し活用する力を身に付けられるようにする。(授業等)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことと現実の場面が結び付けるのが難しい場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学んだ支援ツールを社会に出ても活用できるようにする。(自立に向けて)</li> <li>困ったときはすぐに、保護者や教員等分かる人に相談するように指導する。(自立に向けて)</li> <li>トラブルに気づきにくく、人に相談しないこともあるため、生徒が困っているときの反応、サインの出し方、察知の仕方を検討する必要がある。(自立に向けて)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談を受ける側が障がい特性を理解し、配慮をする必要がある。(消費生活相談)</li> <li>授業の中で、実際の相談窓口の録音音声を使用する、外部から人を呼ぶなど、現実に近い形でロールプレイングを行う機会があるとよい。(授業等)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度聞いただけでは理解しにくいところがある。一度に複数の情報が目に入ってくると理解しにくい場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度に多くの情報を提示しないようにし、順を追って課題や作業の手順を分かりやすく示す必要がある。(授業等)</li> <li>資料を作成するときは、黒・白などシンプルな色使いで1スライド1メッセージ程度とし、伝える情報を少なくする。(教材)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンプルで、繰り返し学べる資料を提供するようにする。(教材)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的なことを理解することが難しい場合が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なことから話を進めていくようにする。(授業等)</li> <li>具体的に示すようにする。(授業等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お金を計画的に使うといった基本的事項を学習する必要がある。(教材)</li> <li>教材は「断る」、「自分で考える」といった内容の基本編と、トラブル事例や制度といった内容の応用編の2つあると使い分けができる(教材)</li> <li>場面が展開していくアニメーション動画より、短い時間で場面を区切って止めることのできるロールプレイングで、少しでも生徒自身の生活や体験、経験と結び付けて実感してもらうことが重要である(教材)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを忘れやすく、定着が難しい場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何度も繰り返し学習し、少しずつ積み重ねていくようにする。(授業等)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>会話でやり取りができていても、意味が分かっていなかったり、自分の都合のいいように解釈してしまったりする場合がある。</li> <li>外部に相談できる人がいても、すぐに相談できないと相談を諦めたり、忘れたりする場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会に出たときの困った状況を実感させることは難しいが、どういう状況が困るということか授業の中で示すようにする。(自立に向けて)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラブルが生じた際に支援者が気付いて相談などの支援ができるようにする。(自立に向けて)</li> <li>社会に出てから多くの時間を過ごす職場の中に相談できる人がいるように促す。(見守り支援)</li> </ul>	

※「共通」の項目を設けて整理をしているが、種別に記載している内容が他の障がいの種類についても当てはまる場合もある。

特別支援学校（主に高等部）における消費者教育の在り方に関する意見交換会  
論点整理表

項目 障がいの種類	(1) 障がいの特性	(2) 教育上、配慮すべきこと	(3) 今後の消費者教育の在り方に関する意見・要望 (今後の施策に向けた課題)
肢体不自由・ 病弱	・体力が少ないため、集中力の持続時間が短い。	・目標の重点化や学習内容の精選が必要になる。(授業等) ・姿勢保持に気を付け、生徒にあった机や椅子を使用する必要がある。(授業等)	・買物体験を通して、金銭感覚を養う機会を作ることが重要であるが、外出による体験や体力を使う活動は難しい。(自立に向けて)
	・動作が困難で時間がかかり、視覚機能の問題から板書の書き写しが難しい場合もある。	・情報を読み取りやすいよう、文字の拡大や着色、フォントの調整、教室の明暗に気を配り、背景をシンプルにコントラストがはっきりするようにする。(授業等)	・将来利用しやすいプリペイドカードやキャッシュレス決済について教える教材が必要になる。(教材)
	・外出が困難な場合もあり、ストレスを感じやすい場合も多い。	・選択肢を設けるなどして、自己決定を促し、ストレスに配慮しながら生徒の自尊感情を保つようにすることも重要である。(授業等)	・ネットショッピングや、今後増加が見込まれる移動スーパー、コンビニ、宅配サービスをロールプレイングで体験することは有用である。(授業等) ・日常動作を確認するための施設設備が必要である。(自立に向けて)
	・体調により予定どおりに授業を受けられない場合や授業中に休憩を要する場合がある。	・授業の際は、姿勢の変換や適切な休養をとるように促す。(授業等)	・訪問による授業があり、生徒の症状にあった授業が必要になるため、コンピュータで加工(カスタマイズ)できる教材があるとよい(教材)
	・車椅子での移動が主で活動範囲が限られ、生活の支援を必要とする場合が多い。	・生徒自身が消費生活を送る上で課題を見出し、調べるような授業を行うようにする。(授業等)	・教材はテーマごとに見開きで完結するようにすると、見やすく、寝たきりの生徒も使いやすい。(教材)
	・経験が少なく物事のイメージ、関連付けが難しい場合が多い。	・ロールプレイングやシミュレーションといった間接体験、疑似体験による買物等の消費行動を経験し、成功体験を得ることが有用である。(授業等)	・動画で学習することは効果的であるが、実写の場合は情報量が多く注意散漫になりやすいので、手を加えやすいアニメーションのほうがよい。(教材)
	・物、事に対する欲求が少ない。	・生徒が自分でできる場所は手を出さず、見守ることが必要である。(自立に向けて)	・生活を共にしたり、サポートしたりする支援者も一緒になって消費生活について学習することが重要である。(見守り支援)

※「共通」の項目を設けて整理をしているが、種別に記載している内容が他の障がいの種類についても当てはまる場合もある。